令和6年度 学校評価シート 〈前期中間報告〉

●7月：第1回児童アンケートと教職員アンケート実施予定 ●1月：第2回児童アンケートと教職員アンケート実施予定。保護者アンケート実施予定

*評価:A:「十分に達成された」、B:「おおむね達成された」、C:「やや達成されなかった」、D:「達成されなかった」で評価

上田市立西小学校

学校教育目標・めざす児童の姿	今年度の重点目標	評価	成果と課題	改善策・向上策
支え合う・聴き合う・学び合う学校 〈めざす児童の姿〉 自ら課題を設定し、幅広く情報を集め、仲間と力を合わせて取り組む子ども	○聴き合う 互いの声に耳を傾け、聴き合うこと。教室に言葉が響き合うこと	B	・「聴くこと」が何にとって良いのか、職員間でも共有できていないのではないかと。他の目標項目も同様、各担任の考え方に任せられている感があるので、考えを共有し学校全体で大事にしていこうという意識をもつ必要がある。	・学校目標について、児童の実態（課題や良さ）からどう大切なのかを職員で意見交換する機会をもつ。
	○支え合う 分からない時に遠慮せず「教えて」と言えること 「教えて」と言われたら、自分のすべてを使って伝え、支えること	B	・教職員アンケートの結果を見ると、マイナス評価の割合が昨年度より減ってきた。児童評価では、「クラスで安心して勉強・・・」という質問項目のマイナス評価の割合が昨年度より増えている。	・年に2回行う村瀬先生の指導のもと、日々の授業の中で、児童が友と支え合いながら学習できるように努めていく。
	○学び合う 友と協働し、探究的な学びが深まること	B	・アンケート結果から、協働的な学びへの職員の意識は高くなっているが、「ジャンプのある課題設定」の評価が低い結果である。	・西小学校としての学び合う姿（目指したい児童の姿）を決め出し、またジャンプの課題についての理解やその共有を図る。

領域	対象	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題	改善策・向上策		
教育課程		◇学校行事の充実	子どもたちを主役とし、満足感・達成感が残る行事を実施することができたか	A	・「授業の延長としての行事」の考えのもと、スポーツデーではつける力（評価）を明確にして実施できた。子どもたちと教師とでねらいが共有できたことで、互いに無理なく、練習と本番を通して満足感や達成感をもてた。しかし、校庭の整備には職員は大変苦労した。	・「子どもたちを主役とし」という部分は、「教師が子どもたちのために用意してあげる」ということではなく、子どもたちと先生とが同じ目標に向かって取り組むということととらえ、今後の行事の充実を図る。また、施設等の環境の整備については検討が必要。		
		◇どの子どもも安心して学べる教室環境づくり	掲示、発問、環境の工夫、個別の指導計画の活用、学校内外の連携により個に応じた指導が行えたか	B	・職員アンケートの結果を見ると、昨年度より評価が下がっているが、机配置や教室掲示など、工夫がなされているクラスが多くある。	・教室環境づくりについて、教師間で互いに話し合ったり見合ったりする研修の機会を設ける。		
教育活動	学習指導		教師は子どもの声に耳を傾けることができたか	B	・職員アンケートでは、A 評価（十分に達成された）の割合は増えた。一方で、やや達成されなかったと感じる職員が昨年度より増えた。	・声を出せない児童の声に耳を傾けることをより意識していく。		
			◇協働的な学びの充実		ジャンプのある課題設定ができたか 友と関わり合いながらペアやグループで学びを深めることができたか	B A	・職員間の理解と取り組みに差がある。毎時間の授業での実践や教科によっては難しいという実態もある。 ・2学年はスポーツデーの表現の学習場面で、グループ別で話し合う場面を設けた。始めはうまくいかないこともあったが、リーダー格が出て進めるようになったり休み時間にも練習したり、積極的な姿があった。	・1学期の村瀬先生の指導をもとに今後の取り組みについて考えていく。 ・毎時間の授業、すべての単元の中で、ペアやグループ活動を行うことはできないが、児童の力をつけるために、場面を決めて意図してペアやグループ学習を取り入れていく。
			◇体育学習の充実	運動固有の楽しさ（特性）に触れながら夢中になって体を動かす授業ができたか	B	・児童アンケートでは、昨年度と同様に9割以上の児童が「運動が楽しい」と答えた。一方で教員アンケートでは、D 評価はないものの、全体的に評価が下がってきている。	・学校全体で運動を楽しむ雰囲気ができているので、より体を動かす楽しさを味わえる授業づくりについて職員間で情報公開等をしていながら考えていく。	
	生活指	◇人権教育の充実	人権教育の授業改善を進め、いじめや差別のない学級とすることができたか	B	・各学年で、異年齢交流を多く行っている。相手意識を学ぶ機会をもつことができた。	・相手意識を学ぶ学習を引き続き意識して行う。このような学習や経験が、児童の中に基盤としてあることが大切であるととらえる。まだ今年度から交流し始めた学年もあるので、継続していく。		

	導	◇つながりを深める交流活動	ペア学級など異年齢との交流を通して、周りの人のことを考えようとする気持ちを育てることができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な交流活動はなくても、例えば児童会連絡などの日常的な取り組みも交流の一つと捉えていきたい。その中で相手意識をもった伝え方や聞き方を最初は教師が教えていく。今年度、姉妹学級と連絡を取って児童会連絡の時間を設けたことがあり、よかった。すぐに「ここが良かった」「こうすればよいよ」と評価ができたので、継続していきたい。また、全校でも児童会連絡の時間を位置づけたらどうか。 ・生活科で1学年との交流を行ったが、どうすれば相手ができるようになるか、楽しめるかと考える姿があった。児童会活動だけでなく生活科等でも交流は可能だった。振り返ることで次につながる活動であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級や学年で行う異年齢交流、なかよし交流やえがお集会といった機会はもちろん、日常的に人と人が関わる場面でも相手意識をもつことを学べると捉え、その機会を大切にしていく。 ・二学期も継続していきたい。
学校運営	地域との連携	◇ふるさと学習の充実	生活科や総合的な学習の時間にふるさとで学びを深めることができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を学ぶ学習についての児童アンケートでは、昨年度よりやや肯定的な回答が減った。職員アンケートでは肯定的な回答は減ったが、継続して川遊びや外に出て学ぶ活動などを行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価は下がってはいるものの、活発に地域に出ていくことは、各学年で積極的に取り組んでいるところである。「昨年度もやったから」という意識ではなく、その活動がどのような学びがあるのか、ふるさと学習とどうつながりがあるのかについて再認識したり活動を練り直したりする時期にあるととらえていく。
		◇地域ボランティアの支援	ボランティア活動を積極的に進めることができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・継続しているクラブ活動の講師ボランティア、園芸ボランティアの皆さん、放課後学習室の方々のおかげで充実した取り組みとなっている。 ・読み聞かせでは、引き続きその場で直接感想を伝えるようにし、「やってもらって当たり前」ではないこと、感謝の気持ちをもつことを教えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きボランティアの方がどのような気持ちでいるのか、どう支援して下さっているのかを子どもたちに伝えるとともに、感謝の気持ちをもって生活できるようにしたい。 ・さらに積極的に地域とのつながりの機会をもちたい。
	研修	◇教職員の指導力向上	互いの授業を気軽に見合い、日常の授業を改善することができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の学級もあるので気軽に見合うことができない難しさがあつた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気軽に見合うという点は難しいが、5月の村瀬先生の研修会は、1つのクラスを見るのではなく他学年の授業を見る（例えば学級経営案発表のような異学年構成メンバーで時間を分けて互いに見る）機会にし、それを授業づくりを語り合う会と位置付ければよいと思う。 ・参観は多くはできないが、職員室では、授業のことなどを聴き合ったり話し合ったりする様子が多くあるので、授業改善に向けての意識は今後も高めていきたい。